

株式会社日本農業サポート研究所 令和元年度事業実績

年	月	事業内容
2019年～ 2020年	4月～3月	弊社がコンソメンバーになっている「スマート菜花米実証コンソーシアム」の直線アシスト田植機、自動運転トラクター・コンバインなどを使った実証試験が行われ、弊社は作業時間集計などを担当した。
	4月～3月	農研機構が中心となって進めている、革新的技術開発・緊急展開事業(うち経営体強化プロジェクト)「養水分制御を基盤とした樹体管理技術の確立による高品質カンキツ果実連年安定生産の実証」で、弊社はコンソーシアムの一員として「持続可能なカンキツ作経営ビジネスモデルの開発」を担当。愛媛県・広島県のカンキツ産地で調査結果を踏まえたパンフレットとビジネスモデル案を作成した。
	7月上旬	アジア農業協同組合振興機関(IDACA)がJICAから受託、実施している平成31年度課題別研修「農民組織の設立・強化」コースで、弊社代表福田浩一がアジア、アフリカから11名の研修員を対象に農業普及の研修を行った。
	7月上旬	新潟県農業大学の「米・農産物輸出論」の講義で、弊社代表福田が講師を担当した。研修は、東南アジアへの輸出の現状について講義後、ワークショップ形式で行われた。
	8月上旬	2018年度JICA課題別研修「稲作技術向上」で、「農家支援のためのICT活用」について、弊社代表福田が講師を務めた。この研修コースは、JICAから委託された一般社団法人海外農業開発協会(OADA)が実施し、アジア、アフリカから11名の研修員が参加した。
	8月下旬	「平成30年度 常緑果樹研究会」が福岡国際会議場で開催され、弊社代表福田が「タイへのカンキツ輸出に対する支援の現状および輸出拡大への課題と方向性」と題して話題提供を行った。 本研究会は、国立研究開発法人 農業・食品産業技術総合研究機構 果樹茶業研究部門が主催し、全体会議では、「カンキツ輸出の現状とその促進にむけた生産・流通技術の展開方向」をテーマに6名の方が講演し、その後総合討論が行われた。
	10月上旬	奈良県で、若手普及指導員、農業研究開発センター研究員など約30名が参加し、スマート農業の研修会が開催された。「スマート農業の進展と普及指導員の新たな役割」と題して講演を行い、その後参加者と情報交換を行った。
	12月上旬	長野県普及活動研究会で、「スマート農業の推進に向けて普及指導員が果たすべき役割」と題して、講演した。研究会は、参加者120名以上と盛況だった。
	12月中旬	栃木県普及職員協議会青年部学習会で、講演した。テーマは、「普及活動において、スマート農業にどうかかわるか、どう進めるか」で、土曜日にもかかわらず、30名ほどが参加された。
	2月下旬	静岡県浜松市のスマート農業の現状を調査した。